ギース5期運営委員会第1回（通算第9回）議事録

日時：2022年3月27日（日）11:00～12:00　オンライン開催

出席（47学協会）

一般社団法人 社会情報学会
日本社会心理学会
一般社団法人 日本社会福祉学会
総合女性史学会
日本フェミニスト経済学会
日本スポーツとジェンダー学会
日本経済学会
関西社会学会
日本犯罪社会学会
日本労務学会
日本教育社会学会
日本中東学会
日本言語学会
国際服飾学会
一般社団法人 日本健康心理学会
文化史学会
日本ジェンダー学会
日本西洋古典学会
日本宗教学会
日本法社会学会
一般社団法人 日本発達心理学会
一般社団法人 日本文化人類学会
ジェンダー史学会
法と心理学会
科学技術社会論学会
日本労働法学会
ジェンダー法学会
日本農村生活学会
日本哲学会
化学史学会
沖縄女性研究者の会
日本年金学会
歴史学研究会
国際ジェンダー学会
一般社団法人 日本民俗学会
日本社会学会
経済理論学会
日本認知心理学会
日本経営学会
日本村落研究学会
日本語学会
日本社会教育学会
日本人口学会
一般社団法人 日本認知・行動療法学会
日本マレーシア学会
公益社団法人 日本心理学会
一般社団法人 日本教育心理学会

委任状（4学協会）

日本医学哲学・倫理学会
日本倫理学会
日本教育行政学会
日本基督教学会

オブザーバー参加（1学協会）

心理科学研究会

定足数を確認し、委員長挨拶の後、議事に入った。

議題

＜報告事項＞

1.　前回ギース運営委員会議事録（2020年9月26日開催，通算第6回）の確認（資料1）

前回ギース運営委員会の議事録が確認された。

2.　ギース新役員体制，幹事学協会・副幹事学協会の紹介

委員長：吉原雅子（日本哲学会、九州大学）
副委員長：伊藤公雄（日本社会学会、関西社会学会、京都産業大学）
：窪田幸子（日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会、芦屋大学）
幹事：小島優子（日本哲学会、高知大学）
：稲原美苗（日本哲学会、神戸大学）
：藤井和佐（日本社会学会・岡山大学）
：安藤由美（日本社会学会、琉球大学）
：椎野若菜（日本文化人類学会、東京外国語大学）
：岡部美香（日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会、大阪大学）
調査アドバイザー：稲葉昭英（日本社会学会・慶応義塾大学）
事務局長：宇井美代子（日本心理学会・玉川大学）
幹事学協会：日本哲学会
副幹事学協会：日本社会学会

3.　ギース事務局からの現状報告（加盟状況，分担金納入状況など）（資料2）

宇井事務局長より現在69学協会（オブザーバー参加2学協会を含む）が加盟していることが報告された。

4.　10月から3月までのギースの活動報告

(1) ジェンダー比率調査について

吉原委員長より、26の学協会からの回答結果を、各学協会の許可を得てホームページに公開したことが報告された。また、調査結果の公開方法等については、今後に役員会で検討を行い、適宜運営委員会に報告する予定であることが説明された。

(2) 企画・調査委員会／調査WGについて（資料3）

宇井調査WG座長より、資料に基づき、第2回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（以下、「第2回調査」と略記）の進捗状況が報告され、科研費基盤研究（B）に採択されたことが報告された。

また、吉原企画・調査委員長より、第2回調査結果が科研費の実施状況報告や研究成果報告等も行わなくてはならないこと、1期ずつ交代する役員の任期と第4期から継続している調査WGとの任期が一致せず、調査WGの作業期間が各期をまたぎ長期化してしまうこと、要望書作成の折に分析方法の調整も必要になる可能性などから、データの分析・報告書の作成スケジュールを変更し、現在の調査WGのデータセットの利用方法について明確にしたいことが説明され、後に審議することが報告された。

ギース第1期、第2期の幹事、および日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会委員長であった永瀬伸子氏より、第1回調査の結果が学術会議叢書29号『人文社会科学とジェンダー』の中で紹介されたことが報告された。

(3) アウトリーチ・広報委員会について（資料4）

藤井アウトリーチ・広報委員長より、資料に基づき、これまでのアウトリーチ活動と広報活動について報告された。また、今後のアウトリーチ活動について、特に〆切を設けずに随時募集するが、学協会での広報活動開始1か月前までに応募していただきたい、また応募内容によっては対応できない場合もあることも予め了承していただきたいとの依頼がなされた。

次に吉原委員長より、今後にギースへの後援依頼を受け付ける手続きの方法や、後援依頼の諾否を判断する基準について、役員会で検討する予定であることが説明された。手続き方法や基準などが決定するまでは、後援依頼ごとに役員会でその都度審議するとの説明がなされた。

5.　次期以降の幹事学協会交渉経過について

吉原委員長より、以下の通り、次期以降の幹事学協会交渉経過が報告された。

・第6期（2022年10月～2023年9月）：日本社会学会（幹事）、日本文化人類学会（副）
・第7期（2023年10月～2024年9月）：日本文化人類学会（幹事）、日本認知・行動療法学会（副）

＜審議事項＞

1.　副委員長の交代について（資料5）

吉原委員長より、資料に基づき、副委員長は加盟学協会のギース担当者の互選で決定されること、副委員長が属する学協会が副幹事学協会になるとのギースの規約が説明された。次に、現在、副委員長が伊藤公雄氏、副幹事学協会が日本社会学会であるが、日本社会学会内のギース担当理事が交代したことにともない、ギース副委員長を藤井和佐氏へと交代することが提案された。47学協会による投票がなされ、賛成45票、反対0票、白票1票、棄権1票の過半数の賛成により承認された。

2. 実態調査のデータセットの使用等について（資料6）

吉原委員長より、最初に、資料に基づき、第4期運営委員会で承認済みの実態調査のデータセット使用に関するガイドラインについて説明がなされた。次に、第2回調査のデータセットの利用可能時期について詳細な時期が決まっていなかったこと、科研費の実績報告等も進める必要が生じたことから、吉原委員長より、スケジュールを変更すること、及び、第6期に調査実施・単純集計（クロス集計含む）・中間報告書を作成した後は、現調査WGのメンバーが科研費の実績報告等に使用できる学術的な研究を進める場合に限り、ギース第2回調査のデータを使用していることを明記した上で公表することを条件にデータを利用してよいとすることが提案された。審議の結果、異議なく承認された。

＜その他＞

1. 加盟学協会からの報告・提案

・総合女性史学会より、役員会声明「ロシアのウクライナ侵攻に強く抗議する」を3月10日に発出し、在日ロシア大使館に、また連携の意を示すために在日ウクライナ大使館に送付したことが報告された。
・公益社団法人 日本心理学会より、当日配布資料に基づき、「心理学における多様性尊重のガイドライン」が策定中であること、学会員対象の男女共同参画推進に関するアンケート調査を実施し、その結果に基づき常務理事会に提案をしたこと、ワークライフバランスに関するメンタリングイベントを実施したことが報告された。
・一般社団法人 日本文化人類学会より、FENICS共催/JASCA主催「ジェンダー、ライフ、ワークを語り合うパラレルサロン」を12月3日に開催したことが報告された。
・日本哲学会より、男女共同参画やSOGIをテーマとするシンポジウムやワークショップを大会において開催する予定であることが報告された。
・沖縄女性研究者の会より、「沖縄女性研究者賞」表彰会・記念講演会「沖縄の女性の貧困～わたしたちにできること」を開催すること、またギースの後援を得たことが報告された。

2. シンポジウムの案内

(1) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）公開シンポジウム
「ジェンダー平等をいかに基礎づけるか 異分野間対話」
3月27日（日）13:30～17:00 オンライン開催

(2) 日本学術会議主催・日本教育学会共催 公開シンポジウム（GEAHSSも共催の一つ）
「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等
――誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして――」
5月5日（木・祝）13:30～17:00 オンライン開催